

## 2024 年度 シラバス

| 科目名  | 単位数  | 担当教員  |
|--|------|-------|
| 教育のユニバーサルデザイン特論 (R6 認定通信)  | 4 単位 | 阿部 利彦 |
| <b>テキスト</b><br>(1) 阿部利彦 (2017), 『通常学級のユニバーサルデザイン・スタートダッシュ Q&A55』, 東洋館出版社 ISBN-10:4491034192<br>(2) 阿部利彦 (2017), 『決定版! 授業のユニバーサルデザインと合理的配慮』, 金子書房 ISBN-10:4760828397<br>(3) 阿部利彦 (2015), 『通常学級のユニバーサルデザイン・プラン Zero2 授業編』, 東洋館出版社 ISBN-10:4491031576   |      |       |
| <b>科目の概要</b><br>教育のユニバーサルデザインとはより多くの子どもたちにとって分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザインである。さまざまな学びや行動につまずきを持つ子が、学級の日常において学習や活動に興味を持ち、新たに視野を広げられるような工夫である。本科目では、おもに、①通常学級にいるさまざまな困難や支援ニーズを持つ子どもをも支える授業づくり、学級づくり、②合理的配慮(知的障害、学習障害、LD、ADHD 等への支援を含む)と教育のユニバーサルデザインの融合による支援のあり方、③ユニバーサルデザインに関わる教育の動向(海外も含む)、に関して検討・考察する。 |      |       |

### I 科目の目的・ねらい

1. 教育のユニバーサルデザイン化について理解する。
2. 教育のユニバーサルデザインと個別最適な学び、協働的な学びについて理解する。
3. 視覚化・焦点化・共有化の視点をいかした授業実践について考える。

### II 授業計画と評価

- 第 1 回 ユニバーサルデザインとは何か
- 第 2 回 教育のユニバーサルデザインとは何か
- 第 3 回 合理的配慮・基礎的環境整備とユニバーサルデザイン
- 第 4 回 支援の 3 層構造とは
- 第 5 回 学び手のつまずきを想定する
- 第 6 回 授業のユニバーサルデザイン～視覚化、焦点化、共有化の視点で
- 第 7 回 授業のユニバーサルデザイン～5つのテクニック
- 第 8 回 授業のユニバーサルデザインと ARCS モデル
- 第 9 回 授業のユニバーサルデザインと個別最適な学び
- 第 10 回 各教科における授業のユニバーサルデザイン
- 第 11 回 教室環境のユニバーサルデザイン
- 第 12 回 人的環境のユニバーサルデザイン
- 第 13 回 協働的な学びと共感を高める学級づくり
- 第 14 回 ペア、グループ演習における配慮

第15回 学びのユニバーサルデザイン(UDL)

科目修得試験

評価については、レポート50%、科目修得試験50%の割合で行う。

Ⅲ 参考文献

柘植雅義(2014),『ユニバーサルデザインの視点を活かした指導と学級づくり』,金子書房